

# 津ライスニュース 令和6年産第1報

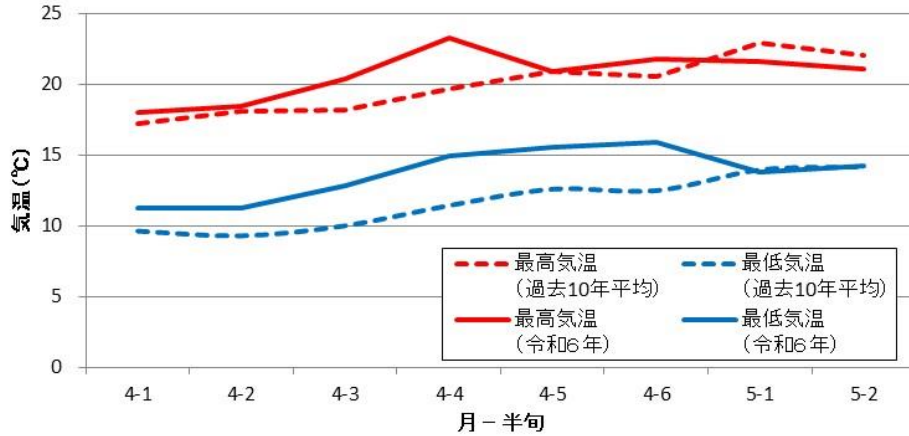
令和6年5月20日

津地域農業改良普及センター 電話:059-223-5103

## 気象経過

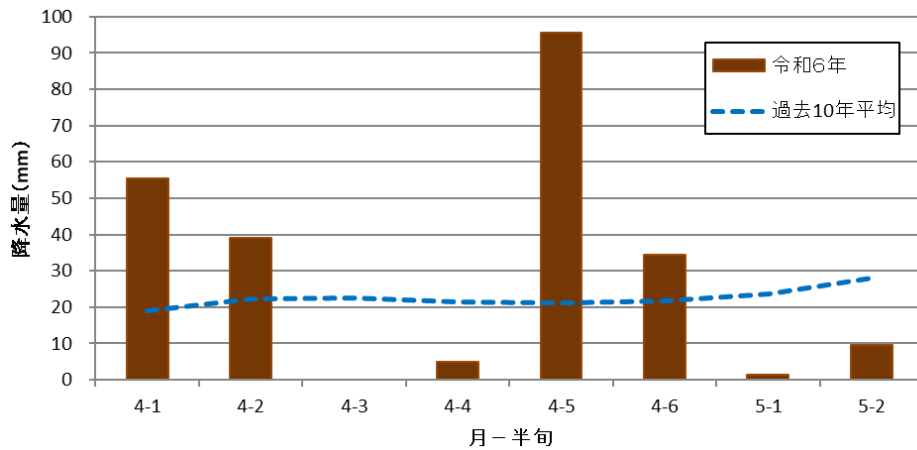
### <気温>

4月中旬までは気温が高く推移しましたが、5月に入ってから、最高気温、最低気温ともに低く推移しました。



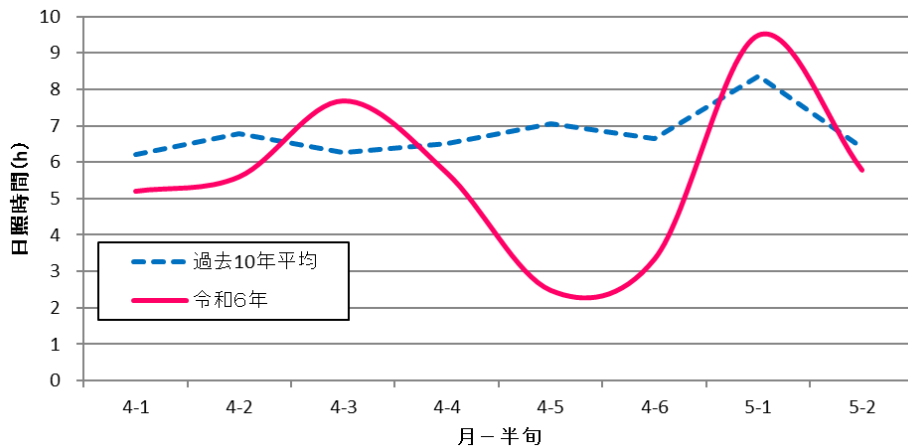
### <降水量>

4月上旬、下旬にまとまった降雨があり、4月は平年よりも降水量は多くなっています。



### <日照時間>

4月中旬に一時日照時間が長くなりましたが、概ね日照時間は少なく推移しています。



## 生育の概況

育苗期間中は、気温が高い日があり、一部でヤケ、ムレ、立ち枯れ病等が見られました。

移植作業は、4月第4四半旬から5月第1四半旬が中心となりましたが、まとまった降雨があり、一部で作業の遅れが見られました。

4月下旬に移植されたほ場では、草丈、茎数は、概ね平年並みで推移しています。

4月中旬から下旬に移植されたほ場において、一部で植え傷みが発生しています。活着までは深水、活着後は浅水にして生育の回復を図りましょう。

## 病害虫の発生状況と対策

### <スクミリンゴガイ(ジャンボタニシ)>

令和5年度は発生が多い年でした。令和5年12月から令和6年2月にかけて気温が高く推移したため、スクミリンゴガイの越冬率は平年並みから多いと推測されます。

5月以降の移植では、気温が高く、スクミリンゴガイの活動が活発なため、移植直後の水稻が被害を受ける可能性が高まります。以下のことに注意して管理を行いましょう。

- 1) 薬剤による防除は、貝の活動を**確認してから**行いましょう。
- 2) 散布適期は、イネの被害が大きい移植後3週間までです。
- 3) 田面の水が深い部分に集まる習性があるため、**浅水で管理すると被害が少なくなります。**
- 4) 入水口に貝が通れない大きさの目合いの網を張り、水路からの侵入を防ぎましょう。また、貝を捕殺し、**卵塊は水面に落としましょう。**
- 5) 既に発生が多い水田で使用した農業機械は、作業後に十分洗浄し、未発生水田に貝を持ち込まないように注意しましょう。

### <いもち病>

今後、いもち病発生の適温(25～28℃)となる時期を迎えます。降雨が2日以上続き、最低気温が17℃以上となると、約1週間の潜伏期間において発病します。今後、雨の日が続き、高温多湿で感染に好適な条件が揃うと、本田でのいもち病発生が懸念されます。感染源を減らすこと、早期発見が大切です。

- ・補植用の苗は早めにほ場外へ取り除きましょう。
- ・いもち病の早期発見と適期防除に努めましょう。

## 今後の栽培管理

### <中干し>

中干し開始は移植後35日後頃で、葉色が濃く茎数が確保できたほ場(コシヒカリで400本/m<sup>2</sup>、20本/株程度となった頃)から行います。

中干しは土壌中に空気を入れることによって、根を健全にする効果や、無効分けつの過剰発生を抑制し有効茎歩合を高める効果が期待できます。適切な中干しの励行によって稲の生育を最適に保ちましょう。

5月連休までに植えたところでは、6月に入れば、ほとんどのほ場で中干し作業が行えると思われていますが、中干しの開始時期と強弱については、水稻の生育状況(=茎数の状況)、土壌条件(=粘質土で強め、砂質土で弱め)に合わせて実施してください。梅雨入り前に一度軽く干しておくとともに、排水が悪いところでは溝切りを実施しておくとう水管理が楽になります。